

高等学校の新学習指導要領解説書における「新聞」関連記述(抜粋)

この資料は、新学習指導要領（平成30年3月告示）解説（同年7月）から、「新聞」「報道」「論説」「ニュース」などの記述を抜き出したものです。「新聞」以外の語句については、新聞との関連性を勘案して抽出しています。

【芸術科】

第2章 各科目

第7節 工芸 I

3 内容

A 表現

(2) 社会と工芸

社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 社会的な視点に立った発想や構想

(ア) 使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をすること。

アは、社会的な視点に立った発想や構想に関する指導内容を示している。

ここでは、生徒が使う人の側から生活や社会を見つめ、使う人の願いや心情、生活環境などを考え、心豊かな発想をし、それらを基に使用する人や場などに求められる機能と美しさを考え、制作の構想を練ることができるよう指導することが大切である。

(ア)は、社会や生活環境を広く観察し、工芸が現代の生活の中で果たす役割や必要性などに関心を深め、生活をより楽しく心豊かにしていくために、使う人の気持ちや求めるもの、生活環境などを考え、心豊かな発想をすることに関する指導事項である。

使う人の願いや心情、生活環境などとは、使う人の状況や願い、私たちを取り巻く生活環境などのことである。

ここでは、家庭や学校、地域など生徒が生活している日常的な社会や私たちを取り巻く生活環境、公共の場などで、使う人の状況、願いや心情などを想定して、工芸が果たす役割や必要性、工芸作品などの使い勝手や使い心地などについて社会的な視点に立って調べたり検討したりすることが大切である。なお、生活環境などについては、自らの体験だけでなく、情報通信ネットワークなど様々な**メディア**から得た情報を基に想定した環境なども考えられる。

心豊かな発想をすることとは、使う人の願いや心情、求められる条件、つくるものへの思い、想像力などを基に、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描くことであり、発想や構想の学習を進める上で基盤となるものである。ここでは、他者の視点に立って考えることが大切であり、実際に使う人や場面、作品に求められる条件などを、様々な情報や自己の体験などから想像し、発想をすることが重要である。

指導に当たっては、生徒の課題意識や制作の必要性の意識を高めることが重要である。

そのためには、使う人の気持ちや状況などについて、資料などを用いて具体的に理解したり、制作のための様々な条件を解決しながら発想をすることの楽しさを味わわせたりすることが大切である。例えば、生徒の課題意識などを高めるために、身近にいる幼児や高齢者などの生活の様子を思い起こすことや、環境や福祉の視点から課題を見いだすなど、実感をもって考えるための具体的な手立てが求められる。その際、[共通事項]との関連を図り、形や色彩、素材や光などの造形の要素の働きやイメージを捉えることができるように造形的な視点を豊かにすることも重要である。加えて、社会的な視点に立って題材を設定するためには、様々な**報道**などにも目を向け、社会における必要性を考慮して発想をすることが大切である。

第8節 工芸Ⅱ

3 内容

A 表現

(2) 社会と工芸

社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 社会的な視点に立った発想や構想

(ア) 社会や生活環境などの多様な視点や使う人の願いなどから個性豊かで創造的な発想をすること。

アは、社会的な視点に立った発想や構想に関する指導内容を示している。

ここでは、生徒が社会や生活環境などから工芸の役割を深く捉え、多様な視点や使う人の願いなどから個性豊かで創造的な発想をし、それらを基に社会における有用性、機能と美しさとの調和を考え、素材の特質や表現の多様性などを生かした制作の構想を練ることができるよう指導することが大切である。

(ア)は、社会的な視点に立って、社会や生活環境などを多様な視点から観察し、使用する人や場を考慮して発見した課題を検討し、個性豊かで創造的な発想をすることに関する指導事項である。

社会や生活環境などの多様な視点や使う人の願いなどとは、社会や生活環境を様々な角度から捉える多様な視点や使う人の状況や心情のことである。ここでは、地域や学校などの日常的な生活環境、空間や公共的な場で使われているものなど、多様な視点から社会や生活環境を捉えたり、多くの人が共通に感じる使い心地や使いやすさなどから、工芸の果たす役割を考え、制作の条件などをより深く観察・検討し、課題意識をもって考えたりすることが大切である。

個性豊かで創造的な発想をすることとは、発想をする上での制約や様々な条件、改善すべき課題を踏まえて、社会をより楽しく心豊かにするために、社会や生活環境などの多様な視点や使う人の願いなどから、独自性や自分らしさを発揮しながら価値のあるものを目指して、生徒自身が強く表したいことを心の中に思い描くことであり、発想や構想の学習

を進める上で基盤となるものである。

指導に当たっては、身近なところにある問題や**メディア**等を通じて知り得た情報などの社会の様々な状況に目を向け、課題を発見する力を高めるとともに、多様な視点から使用する人や場を考えて発想できるようにすることが大切である。その際、創造的な発想をするためにアイデアスケッチや言葉などにより思いや考えを整理したり、[共通事項]を視点として批評し合ったりするなどの言語活動の充実など具体的な手立てを講じることも必要である。

以 上